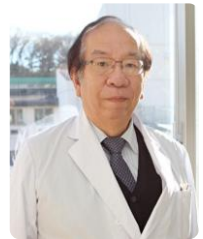


センターニュースをお読みの皆様へ

重症心身障害児という言葉の重さ

小林提樹先生は今でいう「重症心身障害児」を目の前にして、この子たちをどこにも受け入れてもらえない子どもたちにはいけないという思いで、「重症心身障害児」という言葉を初めて専門誌に掲載されました。昭和30年代のことです。当時は肢体不自由児や知的障害児に対してはそれぞれ法律に基づいた規定があり施設がありましたが、両方の障害を併せ持つ子どもたちはそれぞれの法律から除外されて法のはざまに置かれていました。しかしその言葉もここしばらくの間は「医療的ケア児」という存在の中にうずもれてしまい、公的な場から消えていました。それが先般の医療的ケア児に対しての法律改正で「重症心身障害児」という言葉が法的復活を遂げることになり、単に言葉そのものの復活にとどまらない重みのあることだと感じています。



名誉院長 木実谷 哲史

健康と長寿のお祝いを開催しました

7月17日（金）、「健康と長寿のお祝い」の式典を開催し、今年還暦・古希・喜寿の節目を迎えられた14名の利用者様（還暦7名、古希4名、喜寿3名）をお祝いいたしました。当日は皆様の特別な装いがお祝いの雰囲気をつくりだして、長年にわたり当センターで共に過ごしてきた時間を感慨深く振り返る場となりました。

また、式典の様子は全病棟に配信され、島田療育センター全体で利用者様の長寿を祝福いたしました。日々寄り添う職員ならではの愛ある紹介映像が上映されたほか、ご家族からは職員への感謝やねぎらいの言葉を頂き、大変心温まる式典となりました。

（療育部 清水 信夫）



伊藤若冲金銀手作り屏風



二十歳のお祝いを開催しました

8月28日（金）、厚生棟にて「20歳のお祝い」を行いました。今年は第3病棟のK様が人生の節目（20歳）を迎えました。ご家族にもご参加いただき、病棟とはライブ中継でつなぎ、盛大にお祝いしました。お母様がお選びになった袴がとてもお似合いました。

途中、バイオリン演奏者の「きらきら星」様から素敵な曲のプレゼントもありました。数日後には、ご家

族と一緒に記念写真を撮影することもできました。K様、本当におめでとうございます。

（療育主任 下村 毅）



夏のボランティア体験を実施しました

当センターでは、多摩市社会福祉協議会および多摩ボランティア・市民活動支援センターが主催する「夏のボランティア体験」事業に毎年協力し、ボランティアの方々を受け入れています。子どもたちをはじめとする多くの市民にボランティア活動を「体験」する機会を提供し、その普及・啓発・育成を図ることが本事業の目的です。

今年は14名のご応募があり、高校生や大学生、社会人から60代の方まで、幅広い世代の皆様にごセン

ターでの活動を体験していただきました。参加された方々からは、「ボランティア活動や施設見学を通して視野が広がった」「将来のスキルアップにつながる経験だった」「自身の生活を振り返る良い機会になった」といった嬉しい感想が寄せられています。

(療育部 清水 信夫)



島田療育センター

わいわい祭り2026

を実施しました

9月26日（土）に、わいわい祭り2026を開催しました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、雨天決行となり、多くの方にご参加いただきました。昨年度と同様に、会場を地域の方向けのエリアと入所利用者様向けのエリアの2つに分け、イベントを企画しました。

地域の方向けのエリアには、地域の福祉事業所による物販コーナー、スヌーズレンコーナー、デイケアセンター「なんでも屋」、ほっとステーションの「ほっと屋さん」による作品の展示・販売コーナーを設けました。また、今回は新たな試みとして、支援部によるワークショップも開催しました。こちらについては、3面の記事で詳しく紹介しています。ゲームコーナーには、「島田療育センターを守る会」の皆様によるスロットや千本つり、モルック、ピコピコ委員会によるラジコンやアプリ体験を用意し、来所された皆様楽しんでいただきました。

入所利用者様向けのエリアには、守る会の皆様によるパチンコ・スロット、ピコピコ委員会によるゲームコーナーを設けました。お祭りの終了間際には、療育部の職員によるトーンチャイムの演奏と演奏体験も行われ、入所利用者様のたくさんの笑顔が見られました。また、各病棟で、和太鼓や吹奏楽、バイオリンの演奏、フラメンコ、大道芸など、様々なイベントが行われ、お祭りムードを大いに盛り上げてくれました。

毎年たくさんの方々にご参加いただいているわいわい祭りは、多くの皆様のご支援に支えられています。特に「島田療育センターを守る会」の皆様には、環境整備や各種ゲームコーナー、病棟内イベントなどで献身的にご協力いただきました。お祭りの表舞台だけでなく、雨の中、敷地内の除草作業を行うなど、見えな部分でもたくさんのご支援をいただいています。

また、イベントをお手伝いいただいためぐみ会様、かき氷や氷の彫刻・氷柱をご提供いただいた中央冷凍産業様にも、お祭りを支えていただきました。加えて、協賛品をご提供いただいた各企業の皆様にもこの場を借りて感謝申し上げます。（編集委員 神田 水太）



福祉事業所による物販



氷の彫刻の展示



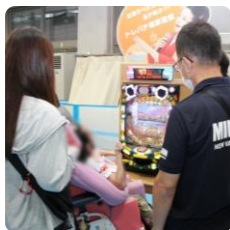
かき氷などの提供



なんでも屋・ほっと屋



地域向けゲームコーナー



入所向けゲームコーナー



和太鼓演奏



バイオリン演奏



吹奏楽演奏



トーンチャイム演奏

わいわい祭り2026

ワークショップ
を実施しました

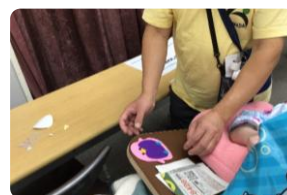
支援部は、支援部長・社会福祉士5人、事務員（兼務）の合わせ7名の小さな部署です。自治体等からの受託業務、計画相談支援、外来や自費事業のセブンクローバーの利用者さんのご相談に応じております。食堂の横の事務所にありますので、何か困ったことがあればお声掛けください。今年のわいわい祭りでの支援部の取り組みをご紹介します。

当日はあいにく細かい雨が降り、肌寒さを感じる1日でした。「みんな来てくれるかな？」と心配しながらも、初の試みとして『フェルトで作る転がるコロコロペンギン』と『コーヒーフィルターに絵描くにじみ絵』の2種類のワークショップを開催しました。コロコロペンギンは、帽子の中に入れたビー玉が重石になり、坂からコロコロとテンポよく転がる仕掛けです。好きな色のフェルトパーツを選んで、目や口ばしをつけたら完成です。この日の為に、支援部のわいわい祭り委員が心を込めて準備しました。雨脚が強くなってきたころ、いよいよ、わいわい祭り開場し、ぞくぞくと利用者様が来てくれました。「ワークショップに来てくださいね」とお伝えした利用者さんもいらっしやり、手芸が得意なお母さんと一緒でしたので、楽しんでいただけたかなと思います。花柄の浴衣を着た利用者様は、ペンギンの体もお腹もピンク、帽子は紫と乙女な組み合わせ。「ピンクがお好きなんですよ」と付き添いの職員もにこにこ楽しそうでした。いつも可愛い髪型やお洋服がおしゃれな利用者様は、ご両親と

一緒にいらっしやり、コロコロペンギンの他、にじみ絵にも挑戦してくれました。こちらの利用者様、日頃から視線入力でアート作品にも取り組まれているからでしょうか、にじみ絵の配色も鮮やかでとても素敵でした。写真も快く了承してくださり、1枚は外来への展示にご協力いただきました。

今回のワークショップは、医療法人社団めぐみ会の皆様と当センター職員のお嬢さんがボランティアとしてお手伝いしていただきました。めぐみ会の皆様は、車椅子の方や小さなお子さんの目線に合わせて優しく、ゆっくりと対応してくださり、温かいお心遣いをいただきました。また職員のお嬢さんは、天候の悪さを吹き飛ばす、若さ溢れる爽やかな対応で、お祭りの雰囲気をもっと高めてくれました。皆様やご来場の利用者さんのお陰で、初めてのイベントでしたが、好評のうちに終わることができました。すでに部内では「来年もまた計画したいね」と盛り上がっています。

(編集委員 高野 桃子)



お子様の発達について、こんなご心配はありませんか？

このコーナーはネットワークしまでで連載していた、親御さんからの発達についてのご質問やお悩みに対して専門職が対応方法をご説明するコーナーです。バックナンバーは島田療育センターのホームページでもご覧いただけます。

Q

体を動かすのが好きなのに転びやすかったり、手先が不器用だったりします。「協調運動」が苦手かもと言われましたが、これは何ですか？

A

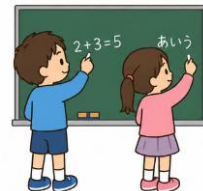
協調運動とは、「手・足・頭・目など体の各部分を連携させ、動作を滑らかにかつ正確に行う能力」のことです。スポーツなどの運動だけでなく、歩行や着替え、ハサミや箸を使う、板書をする、など日常生活や学習場面のあらゆる動作に関わっています。

協調運動の中でも、目で見て手（体）を正確に動かす「目と手の協応」の動きは特に重要で、ここにつまずきがあると、動きがぎこちなく見えたり、作業の習得に時間がかかったりします。頑張ってもうまくいか

ない経験が重なることで、自信をなくしたり、不適応行動につながることもあります。

この様な時大切なのは、苦手なことをただ繰り返し練習するのではなく「できた」という達成感を積み重ねる工夫です。使いやすい道具を使う、成功しやすい方法に変える、覚える順番を考えるなど、お子さんに合った環境づくりが支援になります。気になる時は作業療法士にご相談ください。

(作業療法士 福島 史)



病棟向けコンサートを開催しました

夏のピアノリサイタル

7月26日（日）、厚生棟研修室にて松本秀子様をお迎えし、夏のピアノリサイタルを開催いたしました。松本様は演奏の合間に曲ごとの丁寧な解説も交えてくださり、利用者様の目線に立った柔らかい語り口が、演奏者と観客の距離をぐっと縮めてくれました。

アップテンポで軽快な曲では、会場から手拍子や歓声が響き、一体感に包まれました。一方で、深く落ち着いた曲の演奏中は、会場全体に静かで穏やかな空気が流れ、皆様じっくりと音色に聴き入っていらっしゃいました。とても豊かで魅力的なリサイタルとなりました。



100万人のクラシックライブ

一般財団法人「100万人のクラシックライブ」のご協力のもと、8月16日、20日、9月6日の計3回にわたり、当センターにてコンサートを開催しました。

この活動は、「少し難しいイメージのあるクラシック音楽をもっと身近に感じてもらい、世代を問わずだれもが気軽に音楽を楽しめる、心通い合うあたたかい地域づくり」を目指して行われているものです。

当日のコンサートでは、プロの演奏家の皆様が、利用者様のすぐ目の前で素晴らしい生の音色を届けてくださいました。会場の空気は一変し、皆様がすっかり音楽に引き込まれている様子が伺えました。音楽を通じた感動を、参加者全員で分かち合うことのできる素敵な時間となりました。（療育部 清水 信夫）



2025年度 事業活動計算書

勘定科目	本部拠点	多摩拠点	はちおうじ拠点	合 計
サービス活動収益計(1)	19,112,219	4,384,210,131	556,802,589	4,960,124,939
サービス活動費用計(2)	20,378,388	4,297,438,934	554,996,998	4,872,814,320
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-1,266,169	86,771,197	1,805,591	87,310,619
サービス活動外収益計(4)	139,865	25,573,269	1,521,523	27,234,657
サービス活動外費用計(5)	0	10,125,500	5	10,125,505
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	139,865	15,447,769	1,521,518	17,109,152
経常増減差額(7)=(3)+(6)	-1,126,304	102,218,966	3,327,109	104,419,771
特別収益計(8)	0	823,019,079	0	823,019,079
特別費用計(9)	0	802,382,144	1	802,382,145
特別増減差額(10)=(8)-(9)	0	20,636,935	-1	20,636,934
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	-1,126,304	122,855,901	3,327,108	125,056,705
前期繰越活動増減差額(12)	114,224,782	34,809,868	264,668,650	413,703,300
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	113,098,478	157,665,769	267,995,758	538,760,005
基本金取崩額(14)	0	0	0	0
その他の積立金取崩額(15)	0	850,000,000	37,000,000	887,000,000
その他の積立金積立額(16)	0	12,000,000	5,400,000	17,400,000
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	113,098,478	995,665,769	299,595,758	1,408,360,005

家族向け発達支援講座 一詳細・お申し込みはQRコードから一

講座5

どうやってよめるようになるの？
～ひらがなの土台となる
ことばの発達から考えてみましょう～

日時 2026年10月20日 10:00～11:30
対象 就学前後のお子さんをもつご家族の方
会場 パルテノン多摩4階 会議室3・4



講座6

思春期のより良い親子関係のために
～上手な関わり方のヒント～

日時 2026年11月10日 10:00～11:30
対象 小学校高学年～高校生の保護者
会場 永山公民館（ベルブ永山）視聴覚室

